

新県立体育館を核としたスポーツ・健康づくり拠点に向けた「施設整備検討懇話会」について

1 概要

○設置の目的

スポーツ・健康づくり拠点に向けて、本県のスポーツ推進だけでなく、県民の心身の健康の保持増進を図ることを目指し、老朽化が進む県立体育館を新たにびわこ文化公園都市に移設整備することとし、新県立体育館建築基本計画の策定に向け、スポーツ関係者、建築関係など、各分野の団体や学識経験者から意見を求めるため、新県立体育館を核としたスポーツ・健康づくり拠点に向けた「施設整備検討懇話会」を設置する。

○委員 12人(別紙名簿のとおり)

2 第1回施設整備検討懇話会 開催日時 平成 28 年 6 月 29 日(水)10:00~12:00
開催場所 大津合同庁舎7-A 会議室

3 主な委員意見

○スポーツ・健康づくり拠点について

・「体育館を核とした」とあるので、懇話会では体育館だけでなく周辺の公園機能まで含めて幅広く議論をしていくというスタンスでよいか。

・健康志向の食をテーマに、立命館大学の食科学部、龍谷大学の農学部、滋賀医大の栄養管理部が相互の強みを発揮して、体育館で大学間連携による発信性のある事業を展開できるとよい。

○座席数について

・現在の体育館の座席数では、全国規模の大会では全く不足。

・イベント、コンベンション機能を持たせるためには固定席だけで最低 5,000~6,000 席くらい必要。

○交通アクセスについて

・立命館大学では学園祭時に 2,000 人規模のコンサートをやり、バスのピストン輸送で対応している。学生も毎日 6,000 人くらい通学しているので、バスというのがひとつの交通手段になる。

・南草津駅から、立命大、医大、龍谷大をとおり、瀬田駅まで一周する LRT を通せないか。バスが日に 90 台出ているということだが、この現状から脱皮しないと人が定着していかない。

・び文公園で 85%が自家用車利用というのは車しかないから仕方なく使っているだけで、これがボトルネックになっていることをまず理解すべき。常に循環しているような形をとらないと、人が集まらない施設になってしまう。

・障害者の方はすべて車だけで移動できるとは限らず運転できない方もたくさんおられる。そういった方への配慮を願う。

・瀬田駅の状況を見ていると、どの時間帯でもバスが溢れている。物理的にバスの本数を増やすとい

うのも難しいのではないか。

・全国障害者スポーツ大会では、全国から数百台規模のバスが集まってくる。現状の滋賀医大に入っていく道では大渋滞になる。

・南笠からくる都市計画道路が未整備であり、将来的に東側から西側へのアクセス道路、また龍谷大学の進入路の先の計画路線を大鳥居の集落まで整備すべき。

○駐車場について

・おそらく駐車場に入っていく道路は1カ所だけ。病院前を通っている道路は非常に狭く、歩道も木の枝が垂れ下がり歩ける状況にはない。一時的に観客が集中すれば、この道路は機能しないと思われる。

・駐車場を周囲に分散させるか、入り口を複数作るべき。ここは救急車が走る道でもある。

・500台くらいの臨時駐車場では全く足りない。一時的に集中するのでその解決をどうするのか。

・駐車場を有料にすることで、収益を少しでも上げ維持管理費を賄うべき。滋賀医大の駐車場も近いうちに有料にする予定。

・入口が一カ所だと、災害発生時に防災施設として活用できてもアクセスできないという事態になる。

・熊本地震の場合は、車内で泊まれた方が多く、避難者で駐車場が満杯になったという情報がある。そういうことも含めて、増設も考えてほしい。

・全国規模の大会では、全国から数百台のバスが来る。バスの乗降場所も含めて駐車場の整備も議論すべき。

○スポーツビジネス、イベント、興行関連について

・人を呼ぶということではショッピングセンター、映画館やボウリング場などの諸施設を併設してスポーツ以外のところで稼働率を高め、来ていただく人を増やすことが大事。

・国体のために造るのではなくこの施設があるからイベントや人が集まるという施設を造るべき。

・大きな学会を招聘できるコンベンション会場としての体育館にしてほしい。

・環境ビジネスメッセが長浜ドームで20年間開催されているが、ドームでは出展者が満杯になっている。県南部で実施できる会場がなく、是非新しい体育館で開催してはどうか。

○フードコートの整備について

・食事のできる場所も大事。び文公園の中で食事のできる場所が少ないので、需要は公園全体であるのではないか。

・タニタ食堂のようなものがあると注目される。健康志向の方たちの集いの場所であるようなところにしていくべき。

・フードコートについては大学と連携した何か発信性のあるもの、地産地消の食というのは外せない。付加価値を付けていかに人を呼び込むかということ。

○体育館の在り方

- ・汗を流してするスポーツもよいが、スポーツに全然関係のない方を呼び込めるような要素もあってよい。子育て中のパパやママ、高齢者の方とか、障害のある方とかが集える居場所になることも大切。
- ・体協事務局をここに移転して、各競技団体も全部集める。体育館利用者だけでなく、お客さんでない方も来るようにしていかないとフードコートを作ってもすぐ潰れてしまう。

○施設整備の手法について

- ・まず地域にお金落ちるといことが大事。国体に向けて千載一遇のチャンスだが、国体が終わった後どう活用していくか、シミュレーションも大切。そのために民間の力というのは最大限利用していく必要がある。

○その他

- ・工事の際に支障がないように工事の進め方を含めて考えていただきたい。
- ・華やかな体育館を造るため、ネーミングが大事。競技のためだけの体育館というのは絶対駄目。カッコ良いネーミングにして体育館のイメージを変えていく。

4 今後の予定

○平成 28 年度中に6回程度開催予定

○主な検討項目

- ・スポーツ・健康づくり拠点に向けた近隣施設との連携方策
- ・他施設との複合化の可能性
- ・交通アクセス等の課題
- ・今後の設計段階に向けた諸条件の整理
- ・民間活力導入の可能性 等

○県民政策コメント(パブリックコメント)の実施

- ・基本計画の策定段階で、県民政策コメント(パブリックコメント)を実施し、広く県民の皆さんの意見を募集する予定。

新県立体育館を核としたスポーツ・健康づくり拠点に向けた「施設整備検討懇話会」委員名簿

※委員は五十音順（敬称略）

委員氏名	現職等
荒木 昌志	びわこビジターズビューローコンベンション部会 部会長 琵琶湖ホテル 総支配人
石田 晃朗	(一社) 滋賀県経済産業協会 副会長 甲賀高分子(株) 代表取締役会長
今西 純一	京都大学大学院地球環境学堂景観生態保全論分野 助教
河上 ひとみ	(公財) 滋賀県体育協会 副会長
北川 正義	(株) 滋賀銀行 取締役営業統轄部長
倉谷 義教	滋賀県障害者スポーツ協会 副会長
高田 豊文	滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 教授
竹田 幸博	滋賀医科大学 理事（総務・財務・施設担当）
田畑 泉	立命館大学スポーツ健康科学部 教授
西村 芳夫	大津市総務部 危機管理監
松永 敬子	龍谷大学経営学部スポーツサイエンスコース 教授 (ボランティアNPO活動センター長)
脇 夢斗	びわこ成蹊スポーツ大学 3回生